

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県掛川市家代の里2丁目13番10号		
自己評価作成日	平成26年11月4日	評価結果市町村受理日	平成26年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400034-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援。ADLの低下が著明になっているが、日々の生活の中で、できる事と本当にできない事をしっかり見極め自身で行おうとする気持ちを引出し、残存機能を活用できるよう支援している。『グループホームあいの街家代』という家で仲の良い方達が集まり一緒に生活しているという気持ちになれるよう、また、職員も同様の気持ちを持ち、日々の援助を行っている。嚥下機能低下でミキサー食で食事提供している方に対しても、栄養が充分摂れるよう、また、美味しく食べて頂ける様、他入居者の方達と同じものをミキサーにかけ食べて頂いている。職員全員、入居者一人一人の日々の様子を把握できており、掛かりつけ医との連携もしっかりとれており些細な事であっても親身になって相談に乗ってもらえている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街並みと街路樹が美しい家代の里に開設して4年目となりました。平均介護度3.8となった中でも「朝来て目を見て声を出させて笑おう」をモットーに軽快なやりとりで明るい笑い声が響き「重度でも安心して受入れできる事業所、として定評があります。入居時混乱し憔悴し切った人が穏やかな表情で暮らせる陰には、技術や知識ではなく「思い、を伝えるケアの積み重ねがあり、ミキサー食となっても好みに合わせた手作りが心を満たし「外食や店屋物では食事が進まない」というエピソードがあるほどです。管理者が熱い想いで無心に種を蒔き続け、家代で成長した人財8名が介護福祉士受験に至り、実りを迎えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『いつでも笑い声が絶えない 笑顔あふれる我が家でありたい』 入居者・職員共にいつも笑って大きな声が響いています。職員は「大変」という言葉は使いません。	平均介護度3.8、車椅子利用者が半数以上となった中でも「朝来て目を見て声を出させて笑おう」「職員同士の会話でも利用者を巻き込んで楽しく」をモットーに、軽快なやりとりで明るい笑い声が響いています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区で開催される詩吟教室に2名参加しています。回覧板・地区の役員さんからの他の教室・催しのお誘いがあり参加できるときには参加させてもらっています。散歩に出かけると近所の方達が声をかけてくださり会話を楽しんでいます。	公園まで住宅街を歩いて出かける際は道々声がかかり、AED講習会にも集っていただきました。ピアノ、詩吟、合唱、オカリナといった趣味をもつ地区の人達が訪れ、ボランティアの輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110番の任命を継続しています。下校時子供たちの声を聴き入居者と一緒に玄関に出て挨拶をするようにしています。民生委員を通し認知症介護に関し悩んでいる方達にいつでも相談に出向く旨お伝えしてあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方達の近況報告は毎回細かく報告しています。市からの意見・包括からの要望にも耳を傾けサービス向上に活かしています。	市、地域包括支援センター職員、民生委員が出席し、曜日や時間の変更、イベント併催で家族も参加できるよう工夫しています。行政を交え地域が抱える福祉問題を協議する場となっていることを議事録から視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問・相談があるときはすぐに対応してくれます。どんなに些細な事であってもいつでも相談してくださいと言って来ています。	運営推進会議には行政からの出席が毎回あり、「重度の利用者でも受入れてくれて家代なら安心」と言ってもらえています。地域包括支援センターには困難事例の相談にも応じてもらえ連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社での研修に出席した職員の資料を基にミーティング時施設での研修を行っている。また、日常的に少人数でのディスカッションを行っています。	法人年間研修を踏まえ個々の事例に基づいて学んでいます。“生命に関わる拘束はやむを得ないとしても、精神的抑制は許されない、”という共通認識のもと、監視ではなく観察力を磨き、視点を変えたケアを指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社での研修に出席した職員の資料を基にミーティング時施設での研修を行っています。職員一人一人がしっかりとした意識でいる事が感じられています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社での研修資料の配布と共に自身で勉強し、知識を得てもらうよう話しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解して頂ける様説明しています。気軽に何でもお話しして頂ける様御家族とのコミュニケーションは大事にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の訪問時、管理者だけではなく職員にも気軽に何でも話せる雰囲気づくりをするよう心掛けています。意見・要望があったときはすぐに話し合いを持ち改善するべき点は迅速に改善するべく対応しています。	「外出の機会を増やしてほしい」との声に散歩やドライブを取り入れ速やかに対応しています。桃の節句や七夕、敬老の日、クリスマスと一緒に過ごせるよう声をかけ『3周年記念』にはミニ運動会と食事会を開きました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時提案を受け入れる体制を整えています。	“職員都合でなく利用者のための提案ならOK、”とし、「意見を言いにくい職員はメモで伝えるように」と配慮しています。食事介助者増加による休憩時間の弾力化や “美味しい”、ミキサー食に試行錯誤を重ねています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	推奨してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	要望に応じ取り組んでくれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念を基に家族のような雰囲気を感じて頂き、時には怒り時には一緒に涙を流し、そんな何気ない毎日を送って頂ける様職員一同思い、何でも話して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が笑顔で気軽に訪問して頂ける様な施設が職員全員にとっての望みです。ご家族の健康にも気遣うよう心掛けています。遠慮せず何でも言い合える関係を作れるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の想い、希望をよく理解するよう心掛け、提案できることはさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご入居者とご家族との絆はもちろん、自分たちとの絆も感じています。良い関係が築けていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一度訪問された方達は「とっても明るく、来やすい所ですね」と皆さん言ってくれます。今後も訪問して下さった方達が遠慮せずゆっくり過ごせる環境を整えていきます。	僚友が大勢で訪れたり、仲間と励んだ体操を事業所で広める人もあります。地区の公会堂に通って詩吟の指導を続ける人もいて、孫の結婚式や100余名が集まった法人運動会での堂々とした披露が感動を呼びました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の意向を尊重しつつお互いが関わりを持てるよう支援しています。入居者同士の関係は職員全員把握しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議への出席・イベントへの出席のご案内を差し上げ、出席して頂きました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の周辺症状の悪化の為、自身の意思を伝えられなくなってきている方達もいます。日々の生活の中での観察を十分にし、思い・希望を推し量れるよう職員全員で努力しています。また、一人一人に接する時間を大切にしています。	一対一でのんびりと散歩する時にはフロアで聞かれなかった想いがこぼれることもあり、共に時間を過ごす大切さを実感しています。同じ支援でも職員によって出る話題が違うことから、各々の情報を持ち寄っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりとすると共に、生活していく中で御家族との会話の時間をできるだけ持ち、把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ご本人の思い・希望を把握すると共にご家族のご希望も取り入れ作成しています。ケア方針は日頃から職員達と話し合いを持ち模索しながらプランに取り入れています。	ケアマネージャが同席するカンファレンスで、各職員が事前に用意した利用者個々のニーズと課題シートをもとに話し合いプラン化しています。家族には面会時や暫定プランをもって要望を聴き出しています。	職員のケアプランへの理解が深まることを期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設サービス計画書を基にモニタリング結果を話し合い、効果・反省をし、次への課題として挙げるようにしています。『申し送りノート』に日々の気づき等を記入し、また、口頭でも申し送りをし全職員で情報共有するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組むよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できる限り活用するよう努力しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度訪問診療をしてもらっています。御家族からの希望も伝え、その都度医師から指示を頂いています。緊急時にも24時間対応してもらい常時適切な医療を受ける事ができています。医師との信頼関係はしっかり築けています。	24時間連絡ができる体制と隔週の往診があるため、専門医を除き全員が協力医に改めています。往診結果は経過記録と申し送りノートで共有し、内服薬の変更や小さな状態変化もこまめに家族へ知らせています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの報告・相談看護職からの相談・指示と、連携はしっかりとれています。看護師からの的確な指示により早めの対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携を取り情報交換・相談を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族とは入居時に説明をしています。また、必要に応じ十分な話し合いを持っています。	重度の受入れもあり「ここで最期まで」という心構えで看取りに取り組んでいます。ターミナル期には家族の気持ちも揺れ動き、職員のメンタルを考え合わせ都度意思を確認しています。夜間でも駆けつけてくれる医師と管理者に心強い仕組みがあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱い講習を行うと共に急変時の対応と連絡方法をマニュアル化し、看護師を講師とし施設内での講習を随時行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・避難場所は把握できています。地域との協力体制はしっかり築けています。	布団を使った階下への避難や優先順位など消防署員のアドバイスを受けています。近隣からは「夜は絶対に行くから」と言ってもらえる間柄にあり大規模災害の時には事業所で待機することを行政と申し合わせています。	備蓄について再度見直しされることを期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	徹底しています。	「ケアは統一して行うものではない、個々を把握しよう」と伝えています。また、「羞恥心は人によって異なるので相手をよく知れば声かけも変わる」とし、排泄の失敗を気にして何度も訴える人へも快いサポートがあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的な思いを尊重しています。思いをうまく伝えられない方に対しては日々の生活の中での表情行動を見逃すことのないようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアルを作らず、穏やかに生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目の彩にも気を使い職員が毎日手作りしています。入居者の中で片づけを手伝ったりしてくれる方がいます。危険のないようお願いしています。	毎日手作りで提供し、一人ひとりの好みに合わせ彩りよく盛り付けられた料理は「外食や店屋物では食事が進まない」というエピソードがあるほどで、心を込めたミキサー食が食欲に結びついていることを視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食の方が5名いらっしゃいます。常食の方達と同じ食事・量をミキサーにかけ提供しています。補水に関しても一人一人好き嫌いを把握しているので好みに合ったものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には自立で行ってもらっていますが仕上げは必ず職員が行わせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位保持が困難な方に対しては職員2人体制でトイレに座ってもらう等ご本人に無理のないよう行っています。認知症症状の為排泄意の無い方もいらっしゃいますができるだけトイレで排泄できるよう声掛けを工夫し支援しています。	体力的に座位が困難でない限りトイレでの排泄を支援しています。横になっている時間が増えた人にも経済的な負担を考慮し極力テープ止めのオムツは控えています。頻回な訴えにも本人の気持ちを尊重しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師・掛かりつけ医とも相談しながら本人の体調に合わせ取り組んでいます。LG21を3/W、ヨーグルトを常時飲用してもらうようにしています。また、毎日の体操と散歩をできるだけするようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人が入浴したい気持ちを大事にし、拒否がある方に対しては声掛けを工夫し支援しています。	「カサカサが治るのにいいのがあるらしいよ」との言葉から入浴剤を取り入れ「ほしいって言ったから買って来たよ」と会話が弾んでいます。気持ちを満たす入浴が皮膚掻痒感も減少させています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツを常に清潔にし、布団もお天気が良い日は毎日干すようにしています。午睡の時間をつくり無理のない生活が送れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報を職員がいつでも閲覧できるようにしており変更があった場合も口頭でも伝えるようにしています。変化があったときは詳細に記録し他職員が把握できるよう徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人得手不得手を把握し、得意なことが発揮できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り努力しています。	天気の良い日は車椅子でも近くの公園まで出かけています。四季の移ろいが豊かな住宅街の並木に癒され、リラックスからの発語はケアアプローチに役立っています。桜の時期には掛川城で堪能し、東海道を楽しむドライブもありました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は御家族にお願いしていますが希望があったときは御家族に相談し買い物に出かけられるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は御家族と相談し支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見た目・ことばでも感じられるよう工夫しています。	至る所に華道を嗜む人が活けた花が咲き誇り、訪れる人の目を和ませています。一抱えもあろうかという獅子は、法人運動会で応援団が担いだ力作で、家代の毎日を見守るように鎮座していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。	居室で過ごす時間が増えた人もあり、葦簀で直射日光を避けこまめに室温調整と換気をしています。季節に応じ装飾品を入れ替える家族もあり、腰かけてゆっくり話ができるよう各室に椅子を備えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫しています。		